

発達障害リハビリテーション学演習

[演習] 第1・2学年 前期 選択 2単位

《担当者名》大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

発達障害リハビリテーションの対象の中心である、脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、自閉症スペクトラムなどの疾患の評価法、治療手段を科学的根拠を基に分析し、クリティカルレビューを行い、報告する。また、自らが行っている発達障害リハビリテーションに関する実践をシングルケーススタディの形式で報告する。

【学修目標】

一般目標：自らの臨床疑問などを解決するために発達障害リハビリテーション特論で身につけた知識・技能を実践する。

行動目標：

1. 発達障害リハビリテーションのシングルケーススタディに関する文献を調査し、クリティカルレビューを行うことができる。
2. 発達障害リハビリテーションの介入方法に関する文献を調査し、クリティカルレビューを行うことができる。
3. 発達障害リハビリテーションのシステムティックレビューに関する文献を調査し、クリティカルレビューを行うことができる。
4. 自らが行っている発達障害リハビリテーションに関する実践報告が出来る。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	講義の概要、学習目標・内容、スケジュール、学習方法の説明を行う。	大須田祐亮
2～5	クリティカルレビュー（1）	発達障害に対するリハビリテーションのシングルケーススタディの文献調査とクリティカルレビューを行う。	大須田祐亮
6～9	クリティカルレビュー（2）	発達障害に対するリハビリテーションの介入方法の文献調査とクリティカルレビューを行う。	大須田祐亮
10～12	クリティカルレビュー（3）	発達障害に対するリハビリテーションのシステムティックレビューに関する文献調査とクリティカルレビューを行う。	大須田祐亮
13～15	ケーススタディ	発達障害に対するリハビリテーションの実践報告をシングルケーススタディの形式で行う。	大須田祐亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション 100%

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【学修の準備】

関連の文献等関係資料を各自調査し学習すること（80分）。

復習は、プリント、講義メモを活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、高度専門職業人としてリハビリテーション科学の実践に寄与できる優れた知識・技術と研究能力の基礎を修得するというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。